

平成 27 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職名	農学生命科学部・准教授
	氏 名	石塚 哉史
事 業 名	弘大生による青森県産りんご加工品の台湾向けプロモーション推進事業	
事業の概要とその成果		
【構成メンバー】9名 ・チームリーダー(農学生命科学部) 石塚 哉史(准教授) ・指 導 教 員(農学生命科学部) 田中 紀充(助教) ・参 加 学 生(農学生命科学部) 園芸農学科3年生 4名 ・参 加 学 生(農学生命科学部) 園芸農学科2年生 2名 ・市民, 企業人(株式会社木村食品工業)執行役員兼経営企画室長		
【実施期間】 平成27年12月19日～平成27年12月24日		
【事業概要とその成果】 (1) 事業概要 本学が立地する青森県は、平成27年度「攻めの農林水産業の取組方針」で掲げた通り、アジアに向けた農林水産物・食品輸出拡大を目指し、輸出促進活動に取り組んでいる。青森県は、りんごに代表される青果物(生鮮食品)輸出が、他産地と比較すると盛んではあるものの、関連する加工食品の輸出規模は限定されており、未だ緒に就いた段階といえる。一般的に生鮮食品と比較すると、農産物加工品は保存や長期輸送への対応が可能であり、輸出に適した品目と認識されているため、関係者による期待は大きい。 そこで本事業では、青森県産りんごの最大輸出相手国・地域である台湾において、学生の企画・運営によるりんご加工品の消費拡大を目指したイベントの開催することにより、地域特産食品における国際化対応の現段階と課題について理解を深め、今後の地域貢献に資する人材育成を図った。 (2) 事業成果 本事業を実施することにより、得られた成果は以下の3点である。 第1は、青森県産農産物・食品がもつ対台湾輸出の持続的発展の可能性について、本学の園芸農学を専門とする教員および学生が、①海外の流通業者・消費者を対象とした青森県産りんご加工品のPRを中心とするイベントの企画・運営に取り組むため、学内で学んだ知識の応用を実践する絶好の機会を設けられ、参加した学生・院生の理解度を測れた点である。 第2は、協働企業である木村食品工業にとっても自社生産し、りんご加工品を中心とした製品に対する		

消費者意識と購買行動に関連するデータ収集が一定程度可能となり、今後の台湾での事業展開を検討する上での有益な資料が入手できた点である。

第3は、本事業を実施したことにより、事業に参加した学生は、「地域産業を持続的発展させることに資する事業への理解度の向上」及び「農業・食品関連産業における業務内容の把握(キャリア教育)」に関する意識の醸成が行えた点である。

なお、視察研修実施後は、参加学生による公開報告会及び報告書作成を行ったことにより、参加学生・院生以外にも本事業の意義やその内容を理解する効果もあるために、次年度以降に学科内において本事業および類似の事業を目指す学生・院生への興味・関心を高められるものと想定される。